

J132a

ブラックホール候補天体 MAXI J1828-249 の発見と MAXI が発見検出した 2013 年度後半の突発天体

根来 均, 福島 康介, 鈴木和彦, 小野寺 卓也 (日本大学), 中平聡志, 富田 洋 (JAXA), 芹野 素子, 森井 幹雄, 三原 建弘, 松岡 勝 (理研), 河合 誠之 (東工大) ほか MAXI チーム

2013 年度後半に全天 X 線監視装置 MAXI によって発見、検出された天体および現象について報告する。前回の秋季年会以降、12 月 10 日までに、The Astronomer's Telegram (ATel) に 5 件、The Gamma-ray Coordinates Network (GCN) に 1 件の突発天体の報告を行った。

10 月 15 日に新たな X 線新星 MAXI J1828-249 が発見された (Nakahira et al. ATel #5474)。その後の追観測や MAXI によるブラックホール候補天体 (BHC) 特有の状態遷移の観測 (Negoro et al. ATel #5483) から新天体は BHC と考えられる。今回の MAXI による BHC の発見は、MAXI 打ち上げ後、11 個発見された BHC うちの 6 つ目にあたる。また、同じく BHC では 10 年ぶりに活動を再開した XTE J1908+094 (Krimm et al. ATel. #5523) の状態遷移をいち早く検出し報告した (Negoro et al. ATel. #5549)。また、10 月 2 日に Be パルサー KS 1947+300 の 8 年ぶりの再活動を (Kawagoe et al. ATel. #5438)、10 月 5 日には麒麟座方向からの軟 X 線フレアを捉えた (Ogawa et al. ATel. #5444)。9 月 25 日には特異なガンマ線バースト GRB 130925A を捉え、報告している (Suzuki et al. GCN #15248)。

講演では、これら MAXI による検出された突発天体の特徴と、それらの検出した突発天体発見システムの最近の進展を紹介する。